

必読の一冊

老いをいきいきと・豊かな死を迎える指導書

鈴木 荘一

東京慈恵会医科大学 客員教授・鈴木内科医院長
我が国のホスピス紹介導入者『クリエイティブ・エイジング——生の充実・いのちの終わり』
木村 利人・折茂 肇監修・編著／ライフ・サイエンス
1,890円／2006年

この本は、木村利人恵泉女学園大学学長と折茂肇健康科学学学長の編集による17人の時宜にかなう好著である。本書は4部に分かれて、高齢者の「生の充実・いのちの終わり」をまとめている。

冒頭に、折茂氏が、「活気ある長寿社会を目指して——21世紀の新しい健康づくり——」を述べている。

まず第1部「高齢者の生の充実を求めて」では、日野原重明氏の提唱から始まり(後述)、森岡茂夫氏から「プロダクティブ・エイジングを目指して——ILCの活動と事例を手がかりに——」にて国際長寿センターとその理念について解説がある。高齢者を社会の弱者として捉えるのではなく、すべての人々が老いてもなお、ますます社会にとって必要な存在としてあり続けることを目指していると語っている。

第2部「高齢者のいのちの終わり方」では佐藤智氏が、「在宅でこそ その人らしく 死を迎えられる——医師としての看取りの経験から——」として、氏が開発されたライフケアシステムでは、在宅死が極めて高く、2004年では51.8%であり、その考えが評者と一致する。評者は1977年我が国にホスピスケアを紹介したが、ホスピスとは建物ではなく理念であると感得し、ホスピス指導者ソングラス氏の来日時のおすすめもあって、有床診療所の入院医療から、癌在宅末期医療に切り替えていたので(現在は息子和在宅療養支援診療所の働き)、極めてよく共感できた。

第3部「高齢者の自立とケア——日本と欧米の事例から——」では坂巻潤子氏ほかにより、そして第4部は「座談会 高齢者の生の充実といのちの終わり方をめぐって」を木村氏司会で、折茂氏、アルフォンス・デーケン氏、袖井孝子氏の3人によって話されている。座談会の冒頭で、折茂氏は、今までの老年医学が、死を取り上げてこなかったのは、大きな

問題だったと述べ、現代人は死を科学的な方法として解決しようとしていることに疑問を提示している。さらに、高齢者の医療は単なる延命のためではなく、生活の質(QOL)を重視し、生活の機能障害の予防を最終目的にすべしと語っている。

また、デーケン氏は、86年を「死の準備教育」の年としたことから、日本の20世紀の医療は、肉体的生命の延長に成功したが、21世紀の医療においては、日本の医学・看護学は、生命の長さだけではなく、生命や生活の質を高めることに挑戦すべきと説いている。そして、人間は本質的には文化的な存在であって、老人ホームや病院に文化的な潤いがなければ、これは「文化的な死」だと憂えている。

また、袖井孝子氏は、同氏がお茶の水女子大学に立ち上げた「Quality of Death (QOD) 研究会」から、よりよい死、質の高い死を迎えることを考えている。

木村氏は、医師はもちろん、医療関係者が、身体だけではなく、心のスピリチュアルケアを行う必要性を訴え、最後にいのちの終わり方について4氏で語り合っている。折茂氏は、赤ん坊を取り上げる助産婦という職業があるように、死者を介護するための“death helper”のような職の人が必要ではないかと述べている。

この著作を読み、日頃から高齢者の生と死を考えている私として、いきいきした老後を通り、安らかな死を迎えるためには、やはり日頃から身体的リハビリに留意するとともに、日野原氏が提唱されるように

- ①人と社会を愛し
- ②創(はじ)めることに挑戦し
- ③体、心を忍耐すること

の三つに賛同する。それこそが、クリエイティブ・エイジングではないかと。

全医療人のみならず、高齢市民の方々にぜひ読んでほしい本である。

長寿社会グローバル・インフォメーション
ジャーナル

編集委員・編集作業部会員一覧(敬称略)

● 編集委員

森岡 茂夫

ILC-Japan 理事長

大塚 義治

日本赤十字社 副社長

木村 利人

恵泉女学園大学 学長

行天 良雄

医事評論家

伍藤 忠春

財団法人長寿社会開発センター
理事長

柴田 博

桜美林大学大学院 教授

袖井 孝子

お茶の水女子大学 名誉教授

田中 滋

慶應義塾大学大学院 教授

大迫 政子

ILCアライアンス 事務局長

● 編集作業部会

廣牟田 洋美

首都大学東京 健康福祉学部 准教授

大森 正博

お茶の水女子大学 生活科学部 助教授

菊池 馨実

早稲田大学 法学部 教授

渋川 智明

東北公益医科大学 公益学部 教授

関 ふ佐子

横浜国立大学大学院
国際社会科学部研究科 助教授

鶴若 麻理

早稲田大学 人間総合研究センター 助手

平野 順子

長岡大学 産業経営学部 専任講師

西平 賢哉

JETRO ニューヨーク 厚生部長

大迫 政子

ILCアライアンス 事務局長

● 事務局 (ILC-Japan)

志藤 洋子

鹿島 真美子

大上 真一

斎藤 進